

令和 7 年度 県立岩瀬高等学校自己評価表

目指す学校像	○将来のあるべき姿をイメージし、自己のキャリアについて自ら考え、主体的に最良の選択ができる人間を育成する学校 ○心身ともに健康で、互いを尊重し合い、自らを律することのできる人間を育成する学校 ○「自分の中の力を伸ばせ」という校訓のもと、自己有用感、自己肯定感を更に高め、他者と協力して、より良い未来の創造を目指し、地域と共に歩み続ける人間を育成する学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	○未来を主体的に切り拓く力や豊かな人間性を身に付け、地域社会に貢献できる自律した“市民”を育成する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○社会や地域の課題発見、解決能力を育成する教育課程を編成し、他者と協力しながらよりよい未来を創造する力を身につける機会を提供する。		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○自らの進路実現に向け3年間又は5年間の学びに真剣に向き合い、主体的に日々努力する生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・学校の授業が大切であるとする生徒は多数いるが、家庭学習が習慣化されていない等、主体的な学びにつながっていない。 ・学習指導方法を工夫しながら授業改善を図るとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、ICTの活用や教員間で相互に授業参観・授業研究し、個々の優れた授業実践を共有する。また、学習評価の方法を検討し充実させることが課題である。 ・基礎学力が足りない生徒への対応として、スタディサプリを活用し基礎学力を向上させる取り組みを継続して行う。 ・学校を通した就職希望者の決定状況が100%であった。一方、授業、インターンシップ、学校行事等で学んだことや経験がキャリア形成に生かさない生徒がいる。 ・チャレンジプロジェクトを総合探究の時間と結び付け、進路キャリア教育を一つのテーマとして主体的な進路実現を目指す。 ・「朝の読書」の定着等もあり全体的に落ち着いているが、基本的生活習慣や、公共マナー等に対す		(1) 豊かな人間性の育成	①「総合的な探究の時間」の授業や学校行事等の教育活動全体を通して、規範意識や豊かな人間性を養うとともに、多種多様な他者や社会とどう関わるかを学ばせ、人間関係構築力やコミュニケーション力を培う。 ②「朝の読書」とおして内省し、豊かな情操と人間性を育む。 ③実習や地域との連携した教育活動を通して、医療人(看護師)としての高い倫理観と使命感を育てる。	
		(2) 学習意欲の向上	④実社会との関連を意図した教育を展開することにより、地域課題を発見し、「探究的に学ぶ」姿勢を育む。 ⑤学習への動機付けを高める主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を行う。 ⑥少人数授業・課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高め、大学入試や国家試験に対応できる学力の向上を目指す。	
		(3) 基本的生活習慣の確立と自律的態度の育成	⑦端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣や清掃の徹底等、基本的生活習慣の定着を図る。 ⑧成年年齢18歳への引下げに伴い、規範意識の高揚や自律的態度の育成を目指す。	
		(4) キャリア教育の推進	⑨種々の教育活動や行事等(チャレンジプロジェクト)と関連づけながら一人一人のキャリアプランニング能力を高める。 ⑩適切な情報を提供し、生徒の主体的な進路選択に資する。 ⑪進路指導部と学年との連携を強化し、個に応じた指導の充実を図り、進路希望の実現を目指す。	
		(5) 魅力ある学校	⑫生徒の主体的な取り組みによる学校行事やホームルーム活動等を展開し、生徒会活動を活性化する。	

別紙様式 2 (高)

る意識の不十分な生徒が一部に見られる。 ・情報モラルの低い生徒がおり、生徒間のトラブルに発展するケースが見られた。 ・18歳への成年年齢引き下げに伴い、社会人として必要とされる資質能力等の育成を図ることが課題である。 ・シティズンシップ教育、金融教育、性教育、情報モラル・情報リテラシーの育成を進めている。 ・多くの生徒が看護職に向けて熱心に取り組んでおり、目標に向かって真摯に努力する姿勢が見られる。看護師国家試験で昨年度100%の合格が達成できた。 ・看護師としての職業観・豊かな人間性を醸成し、看護職への意欲を高めることが課題である。高い専門性と人間性を備えた看護職者を育てるという視点で、社会人としてのマナーを身に付けさせるなどバランスのとれた指導を図る。 ・業務の効率化を推進し、月平均45時間超過者の割合が4.2%であった。0%を目指す。 ・「生徒による授業評価」で授業満足度3.2以上は達成しているが、生徒が意欲的に参加するための授業内容や教え方の工夫などの改善は必要である。		づくりと部活動・特別活動の活性化及びキャリア・パスポートの活用	⑬キャリア・パスポートを活用し、自分の高校生活を見通したり振り返ったりすることで自己理解を深めさせ、将来について考え主体的に学び続ける力を育む。	⑭部活動への加入率を上げ、帰属意識、自己有用感、自尊感情を高め、部活動全体の活性化を図る。		
		(6) 看護教育の充実・5年一貫看護師養成教育の充実	⑮衛生看護科・専攻科の発達段階を踏まえ、5年一貫教育の利点を活かした教育活動を展開し、看護に関する知識・技術の習得を図り、将来の医療従事者として活躍できる人材育成を目指す。	⑯教科指導・実習指導・載帽式を始めとする各種行事を通して、看護職への自覚を促すとともに、看護師としての職業観・倫理観の育成と人間的成長を目指した全人的教育に努める。	⑰病院・施設等の関連機関との連携を深め、臨地実習等が実践的で、より発展的な学びを得る場となるように努める。併せて、将来、地域医療の担い手となる人材の育成に資するキャリア教育を展開する。	
		(7) 開かれた学校づくりと外部への情報発信の推進	⑮地域社会や関連機関と連携した教育活動を積極的に展開し、信頼関係を構築する。	⑮本校の特色ある教育活動を積極的に報道機関に情報提供するとともに、ホームページ等で地域社会に発信し、本校の認知度を一層高める。		
		(8) 業務の効率化と働き方改革の推進	⑳学校業務を見直し業務改善を推進し、生徒と向き合う時間の確保を図る。	㉑勤務時間を意識し、勤怠管理システム、テレワークシステム、ワークフローシステムの定着化をはかり、先生方の業務負担軽減を目指す。	㉒本校の前年度の時間外在校時間における月平均時間は15時間59分、月平均45時間超過者割合4.2%、月平均80時間超過者割合0%であり、時間外在校時間45時間以内100%を目指す。	
		(9) 授業改善	㉓生徒が意欲的に参加する授業を実践する。			
			㉔デジタル・シティズンシップ教育の一端として、ICT教育の充実を図る。ICT機器を活用した授業展開を心掛け、生徒のタブレット活用促進を図る。			
			㉕各授業において「生徒による授業評価」を年間2回実施し、KPI（数値目標）として、授業満足度3.4以上を目指す。			
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度（学期）への主な課題
国語	1 基本的な国語力の向上を図る。	ア 漢字力テスト、新聞コラム学習などの取り組みを通して漢字や語句学習への意欲を高めさせる。⑤				
		イ 話すこと・聞くことの指導を通して、柔軟な思考力や適切な判断力を身に付けさせる。⑤				
	2 文意を的確に把握する能力を育成する。	ア ICTを活用し、様々な優れた文章に触れさせ、的確に読みとる力を身に付けさせる。②④⑤②④				
		イ 文の組み立て・語句の意味・文法などを理解させ、語彙力を豊かにさせる。②④⑤				
	3 思考力を伸ばし、豊かな心を培う。	ア 様々な文章を読んで、ものの見方・感じ方・考え方を広め深化させる。②④⑤				
		イ 朝の読書等を活用し、生涯にわたって読書に親しむ習慣をつけさせる。②				

別紙様式 2 (高)

		ウ 新聞コラムを活用し、時事問題に対する関心や自らの考えを深めさせる。⑤⑩			
	4 主体的に表現しようとする力を育成し、伝え合う力を養う。	ア 書くことを通して、思考を整理する力や、自己表現能力を養う。④⑤			
		イ 自分の意思をより正確に伝える経験を積みながら、必要な表現力の基礎を身に付けさせるとともに、授業満足度 3.4 以上を目指す。①②⑤			
	5 進路目標の実現を図る。	ア 受験や就職に対応した小論文や志望理由の指導を一人ひとりと向き合いながら行い、自らの進路について、考えを深めさせ、進路の実現を図らせる。⑥⑩⑫			
地理・歴史 公民	1 グローバル化する国際社会で起こる諸問題に対して、自ら考える姿勢を養うとともに、解決する力を育成する。	ア 時事問題や国際的問題を取り上げ、現代社会の課題やその解決策を ICT 機器等を活用して調べ、考察させる。⑤⑧⑫⑭			
		イ 消費者問題・ネット犯罪など、身の回りで起こる具体的な諸問題について ICT 機器等を活用して調べて考察させ、発表させる。④⑧⑭			
		ウ ワークシート学習等を通して、新聞やメディア等で使われている政治・経済に関する用語・略語などを理解できるようにするとともに、主権者教育として、主権者としての責務を考えさせる。また、社会を構成する一人としての自覚を促し、より良い生き方を模索することができるようにし、授業満足度 3.4 以上を目指す。④⑤⑧⑫⑮			
	2 グローバル化する国際社会に生きる人間として、各国の歴史的な諸事象を理解させるとともに、歴史的思考力を培う。	ア 歴史の授業と地理の授業を相互にリンクし、ICT 機器等の教材を用いてなぜそこで歴史的な諸事象が起こったのかを考察させる。④⑫⑭			
		イ 中学校社会科歴史的分野の復習をするとともに、それを発展させて歴史的な諸事象の背景とその意義を考えさせる。④⑤			
		ウ 主題を設定し、グループで調べたり話し合ったりする学習活動により、近現代の歴史的な諸事象と現在との結びつきを考察させるようにし、授業満足度 3.2 以上を目指す。⑤⑥⑩⑫			
数 学	1 授業を大切にし、授業に主体的に取り組ませ、個に応じた指導ができるようにする。	ア 生徒同士の協働による対話的な授業を充実させ、主体的な学び、そして深い学びへと繋げる。⑤			
		イ ICT の利用を含め、分かる授業を実践することによって、生徒を授業に集中して取り組ませる。⑤⑭			
		ウ 机間指導を充実させ、苦手な生徒に対し、演習の時間などで個別に指導する。⑤⑫			
	2 基礎的な計算力を身に付けさせる。	ア 週末課題を実施するとともに、授業中の問題演習を通して、計算力を身に付けさせる。⑤			
	3 家庭学習の習慣を身に付けさせ、数学に対する深い学びに繋げる。	ア 週末課題の実施により、毎週末の家庭学習習慣を定着させ、数学に継続的に触れることにより、数学に対する深い学びに繋げる。⑥			
	4 授業内容について	ア 学んだことを定期的に振り返る習慣を促し、基礎学力の定着を図るとともに、適切に評価する。⑤			
		イ 生徒の興味・関心を引き出し、自ら学ぶ意欲を育む。また、年 2 回実施される「生徒による授業評価」における KPI (数値目標) として、授業満足度 3.2 以上を目指す。⑥⑫			
理 科	1 基礎学力の向上を図る。	ア ICT の利活用を通して、単元ごとの到達度チェックや課題等の提出機会を設け、学習事項の定着を確認する。またその効率化を図る。⑤⑭			
		イ 成績不振者に対しては学期ごとに補講(学びなおし)を行うなど、学習フォロー体制を充実させる。⑤⑥			
	2 分かる喜びを実感させる。	ア 生徒の実態に合った授業を展開し、既習事項との関連付けや系統性を持たせることで理解の定着を図る。④⑤⑫			

別紙様式 2 (高)

		イ 実験や観察を取り入れ、生徒の興味・関心を引き付ける授業を展開する。また、教材・教具の視点の共有化を図る。④⑤②④			
		ウ ICT を利活用し、生徒と関わる機会と意見交換の場面を充実させ、より生徒の実態に合わせた授業を展開する。④②⑤			
	3 豊かな科学的素養を涵養する。	ア 科学的に探究する過程を通して学習を進め、科学的な思考力、表現力、判断力を養う。⑤			
		イ 身近な生活や自然環境と科学との関わりを重視した指導を行う。④⑤②③			
保健・体育	1 基本的習慣の徹底を図る。	ア 服装・集合時間などの基本的習慣が身に付くよう徹底させる。④⑦			
	2 基礎体力の向上を図る。	ア 体力テストの結果をもとに、個々の健康状態等にも配慮し、一人一人に合った目標を設定させ日々の生活で実践させる。⑤⑩			
	3 生徒の自主性を引き出す。	ア 生徒が自主的に実施できるような教材を提供し、積極的な活動に繋げていく。⑩			
		イ 各自の能力に応じて具体的な目標設定をし、達成に向けて努力させる。⑩⑭			
		ウ ICT を活用し課題解決に向けた思考力・判断力・表現力などを育成し、主体的に取り組む姿勢を養うとともに、授業満足度3.4以上を目指す。④②⑤			
	4 保健学習を通し、健康的な生活習慣を身に付けさせる。	ア 知識の獲得だけでなく、生涯にわたり健康的な生活習慣を身に付けるきっかけとなるような学習内容を精選し、教材選定についても工夫していく。⑩②③			
芸 術	1 生徒が生涯にわたって芸術を愛好することができるよう、指導を工夫する。	ア 知識や技術偏重にならないよう、バランスの取れた指導を行う。④⑤			
	2 生徒の個性を生かす指導方法を工夫する。	ア 生徒が自ら課題を見つけ、主体的、創造的に活動できる場を設定する。④②③			
		イ 各領域の幅広い活動を可能にする多様な題材の設定と教材を工夫し、生徒の授業満足度を高める。④⑤②⑤			
	3 指導に生かす評価を実施する。	ア 生徒自身の自己評価、相互評価を取り入れた評価を行う。④⑤			
英 語	1 高校英語の基本的な知識の定着をねらい、指導方法を工夫する。	ア 1、2年生の少人数クラスでは、暗唱・リーディングプラクティス等を実施し、きめ細かで丁寧な指導を行い、生徒の実態や個に応じた授業を展開する。⑥			
		イ 学んだことを定期的に振り返る活動を十分に取り入れ、基礎学力の定着を図る。⑤			
		ウ 実生活で使える単語や表現を学ぶことで、学習への動機付けを高め、主体的な学びの姿勢を育む。⑤			
	2 実践的なコミュニケーション能力を育成する。	ア ALT を活用し、実践的なコミュニケーションの必要性、楽しみを実感させる。④②③			
		イ クラスルームイングリッシュを教員、生徒ともに使い、英語を使用する機会を増やす。④⑤			
		ウ リスニング、ペアワーク、グループワーク、インタビュー等の活動を行い、生徒が主体的・協働的に英語を使用する場面を増やすことで、生徒の授業満足度を高める。④⑤②⑤			
	3 学習意欲を増進させるように、関心・意欲を高める授業を実践する。	ア 地図・写真・ビデオ、英字新聞(Student Times)等を利用し、各単元に出てくる地域やテーマの背景・状況について理解を深めさせる。④			
		イ デジタル教材を利用した内容理解や、タブレットを利用した生徒同士のやり取り、英語でのプレゼンテーションなど、ICT を活用しながら英語の4技能を向上させる。④②④			
	4 進路目標の達成を図る。	ア 英検受験を奨励し、個別に対策指導を行う。また、1年生全員と2、3年生の希望者に全商英検を受験させ、合格者数を増やす。⑪			
		イ 課外授業や補習授業を充実させ、生徒からの質問を促し、自ら学習する態度を育てる。⑥⑪			

別紙様式2 (高)

		ウ 外部模試の受験を奨励する。⑥⑪			
家 庭	1 基本的な知識と技術の習得を図り、生活課題を自分で解決できる能力を高める	ア 生徒が意欲的に学習に参加できるような資料を活用したICT利用の授業展開を行い、自ら課題を見出し、解決していく活動を中心に学習を進め、生徒の授業満足度を高める。⑤②③⑤			
		イ 学習したことを活用して、生活課題の解決策を考察して、生活の改善につなげる態度を身に付ける。④			
	2 実習をととして、課題に取り組む意欲と技術を身に付ける	ア 生徒の能力に合った個別指導をTTで行い、技術の向上と達成感を体感させる。⑤②③			
		イ 生徒に主体的な学習を促し、机間指導を行いながら個人の指導にあたる。②③			
情 報	1 コンピュータの活用を通して、情報を適切に処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	ア 個に応じたICTを活用した学習や課外授業・補習などを通して、情報を主体的に活用する能力を身に付けさせ、ICT機器を活用したデータ管理を身に付けさせる。⑤⑨②③④ イ アプリケーションソフトを活用する能力や技能を学習し、情報化社会で生きる力を身に付けさせる。動画などの教材を活用し効率化を図る。アルゴリズムを活用し問題解決できる能力を身に付けさせ将来の自分の目標実現を目指す。④⑤			
	2 情報モラルについて考えさせ、情報の適切な扱い方を学ばせる。	ア 情報化社会でよりよく生きていくために必要な、情報の扱い方や情報モラルを動画や実例などを活用したグループワークを活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びとなる授業の充実・改善に努める。④②③⑤			
商 業	1 情報処理の基礎的な知識・技術の習得、及びビジネスの諸活動に活用する能力を育成する。	ア 商業に関するスペシャリストとしてコンピュータを活用する授業を展開し、将来ビジネス社会の課題を解決する能力を育み、ビジネス文書実務検定などを通し知識技術の向上等自ら学ぶ態度を育成する。④⑩⑪②③			
	2 ビジネス諸活動における情報処理、プレゼンテーションに関する知識・技術の習得を図る。	ア ビジネスにおける実践的な表計算やプレゼンテーションをアクティブ・ラーニングによって学習し、情報活用能力およびコミュニケーション能力を高める。ICT 活用しグループ学習を多用することで生徒の主体的・対話的で深い学びとなる授業の充実・改善に努める。④⑨②③④⑤			
	3 経営活動における会計処理に関する知識・技術の習得を図る。	ア 企業経営に欠かせない簿記会計に関する記帳方法や会計処理の能力等を、個に応じたICT教育を通して高め、教材等の効率化を図る。⑤②④			
衛生看護科	1 看護師という職を通しての自己実現を目指すとともに、看護師としての職業観と豊かな人間性を育む。	ア 低学年から看護師国家試験を意識した学習や単元テスト、ワークシートの活用等をととして、主体的な学習への取組みを促し、知識の定着および学習習慣の確立を図る。⑤⑥⑬			
		イ 進路ガイダンスや進路の手引きの活用、面談などを通して一人一人の生徒と向き合い、希望にあった就職・進学活動を支援する。⑩⑪			
		ウ 教科指導・生活指導および看護科集会・戴帽式等の行事を通して、看護科生徒としての自覚と医療に携わる者としての資質を高める。①③⑬			
		エ 生命・医療に関する講話や JICAをはじめとした体験学習、地域のボランティア活動などを通し職業観の涵養と豊かな人間性の育成に努める。③⑨⑬⑭			
		オ 看護実践において情報を適切に活用できるよう、多様な場面で情報を判断する能力および情報モラルを身に付けさせる。⑬			
	2 発展的な学びができるよう校内実習および臨地実習の円滑な運用を行う。	ア 生徒や臨地の実態を踏まえ、実習内容及び方法を精査し、生徒が安全にかつ効果的に実習が行えるよう実習の環境を整える。⑬⑭			
		イ 知識・技術を活用した看護の実践を経験させるとともに、生徒自身の気づきや振り返りを大切			

別紙様式 2 (高)

		にした学習支援を行う。⑤⑮			
		ウ 生徒個々の学習課題に沿った支援ができるように、生徒の個性や習熟度、施設の特徴等を踏まえて、実習指導者と意思疎通を図り、連携した指導を行う。⑮⑰⑱			
	3 看護を学ぶ楽しさ、実践する喜びを感じる教育活動を行う。	ア 5年間を見通した段階的かつ継続的な学習を行うとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びとなる授業の充実に努める。⑤⑥⑮⑲⑳㉔㉕			
		イ 看護に関する知識・技術を活用し、学びを発展させ、実践へとつながる経験を通し、自己有用感・自己効力感を高める教育活動に努める。⑤⑮⑲			
教務部		ウ 異学年交流やグループ活動の機会を様々な場面で設け、協働性・協調性を高めるとともに互いを認め合い、支え合う姿勢を育む。⑧⑨⑮			
	1 適正な教育課程の作成。	ア 生徒が希望する進路の実現に合うよう、柔軟に教育課程を編成し、学習環境の整備に努める。④⑤⑩			
	2 指導力の向上及び授業の充実に努める。	ア 教科ごとに年間指導計画を作成し、効果的な学習評価や実社会との関連を意図した教育を展開することにより、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。④⑤⑥㉓			
		イ 生徒による授業評価や、教員相互の研修により、指導法の工夫や研究を行い、授業改善を図る。⑤㉔㉕㉖			
	3 授業時間の確保。	ア 学校行事の精選や出張・年休時の授業交換に努め、授業時間を確保する。㉔			
		イ チャイムと同時の授業開始、授業終了を徹底し、50分の授業の充実に努める。㉕			
	4 開かれた学校づくり。	ア スクールガイドを充実させ、魅力的な情報を提供する。⑰			
		イ 中学生対象の学校説明会で、本校の良さを十分に発信する。⑰			
	5 ICT環境の整備。	ア 茨城県立学校統合型校務支援システムを適正に運用し、正確な成績処理及び諸帳簿を作成する。㉔㉕			
		イ 見やすく魅力あるホームページを編集し、本校教育活動の情報発信を行う。⑰			
		ウ 教育情報ネットワークの円滑な利用をサポートする。㉔㉕㉖			
		エ 校内ネットワーク、サーバの安定的な運用に努め、情報共有や各種システムの管理をすることにより業務の負担軽減及び効率化を図る。㉔㉕㉖㉗			
		オ 情報セキュリティ対策や、ソフトウェア製品の脆弱性対策に努める。㉔㉕㉖			
	6 図書館の環境整備。	ア 調べ学習の円滑化と読書の推進を図るために、廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を作る。②			
		イ 季節や学校行事等に合わせたテーマ別コーナーを設置し、時流に応じた図書の紹介や情報の発信をする。②			
		ウ 教員のための研修の場としての環境を整える。㉓			
進路指導部	7 豊かな人間性の育成。	ア 教養講座を開催し、豊かな人間性の育成を図る。①⑱			
	8 図書委員会活動の活性化。	ア 図書館行事の企画運営や図書館便りの発行によって、図書館の情報発信の担い手としての人材育成を図る。①			
	1 生徒にとって有益な進路情報を提供し、適切な進路選択ができるよう促す。	ア 「進路の手引き」を活用し、自己理解・進路理解に向けた指導を行う。⑨			
		イ 進路ガイダンスや卒業生講話などを通して、生徒に有益な進路情報を提供する。⑨⑩⑱			
		ウ インターンシップを通して、就業意識や進路目標の設定を促す。①⑨⑩			
		エ 多様な入試制度についての理解を深め、個々の生徒に適切な情報を提供する。⑩⑪			
		オ 公務員講座や市内及び近隣の企業の合同説明会への参加促進及び高校内企業説明会など進路実			

別紙様式 2 (高)

		現を促す経験の場を提供する。⑨⑩⑪⑬			
	2 基礎学力の向上を図ると共に、希望進路に対応できる学力や思考力を身に付けさせる。	ア 各種課外を計画的に行い、学力の養成を図る。⑥⑪			
		イ 学力向上プログラムの利用教材であるスタディサプリーを朝学習課題などに活用し、また到達度テストと連動した配課題の配信を行い、基礎学力の定着を図る。⑤⑪⑳			
		ウ 模擬面接指導を通して、自己理解とコミュニケーション能力の養成を図る。①⑩⑪			
	3 各学年及び家庭との連携を深め、主体的な進路実現を促す指導を目指す。	ア ガイダンスの見直しと求人票のデジタル管理と受付方法変更で負担軽減する。㉔			
		イ 必要に応じて、保護者との進路相談の機会を設け、進路選択の支援をする。⑩ 各学年との連携を深めながら、進路指導についての共通理解を図る。⑪⑳			
生徒支援部	1 基本的生活習慣の確立を図る。	ア ネクタイ・パータイなどの身だしなみを整え、本校指定の制服を正しく身に付けさせ、規範意識の定着を図る。⑦⑧			
		イ 適切な言葉遣い、挨拶等とおして高校生としてふさわしい生活習慣を身に付けさせる。⑦⑧			
	2 高校生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれるようにする。	ア 生徒支援に関する教員間の認識を統一する一つの方策として、朝と放課後の登下校指導を継続することにより、成年年齢引き下げに伴う、規範意識の高揚や自立的態度の育成に務める。⑧			
		イ 特別指導の減少を目指し、学年を中心に教職員全員で生徒情報の共有化を図り、生徒の実態に応じたきめ細かな支援を行う。⑦			
		ウ 登下校の状況を把握すること、スマートフォン使用のルールを設けて指導することにより、生徒たちが安全かつ安心して生活できるよう支援する。⑦⑧㉔			
	3 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	ア 生徒の自己有用感を高め、生徒から相談しやすい関係を構築するとともに、定期的にアンケート調査を行い、生徒の実態を把握し、未然防止・早期発見に努める。①⑦⑧⑬			
		イ 保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。⑬			
		ウ いじめ発生の際には保護者との連携を図り、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い、早期解消に努める。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーと連携を図り業務負担を軽減する。⑬㉔			
		エ 保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。⑬			
		オ 情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適宜に行う。⑬㉔			
	4 P T A 活動の活発化に努める。	ア 活動が事実上停止している支部を廃止し、保護者の負担を軽減するとともに、各委員会にとらわれずに多数の保護者が各種行事に積極的に参加できるように働きかける⑬			
	5 P T A 役員・保護者との緊密な連携を図る。	ア 保護者からの率直な意見に耳を傾け、地域から信頼される学校を目指す。⑬			
保健厚生部	1 健康に興味・関心を持ち、自己の健康状態を正しく把握し、健康管理に努めるよう指導する。	ア 健康診断などの実施とともに、事後措置の徹底を図る。①			
		イ 生徒の心身の健康保持・増進を図るために、継続して教育相談を実施する。①⑬⑳			
		ウ 手指の手洗い、教室の換気するなど、感染症拡大防止の対応を行う。①			
		エ カウンセリング体制の整備と、カウンセリングルームの積極的な活用を図る。①			
	2 校内の清掃を徹底し、環境美化に努める。	ア 清掃区域割り振り計画の策定と清掃用具の調達を行う。⑦			
		イ 学期末大掃除を実施する。⑦			
	3 防災意識の高揚及び安全迅速な避難行動を確立する。	ア 積極的・自発的な避難訓練を実施する。①⑬			
		イ 災害時の連絡・避難を想定して実施する。 クラスルームを活用して振り返りを行う。①⑬㉔			

別紙様式 2 (高)

学校行事改革推進部	1 学校行事や特別活動を通して、学校全体が活性化するように努める。	ア 各種学校行事の準備・運営ともに生徒会・各種委員会が中心となり生徒全員参加が他者と協働し合える活動をする。⑫⑬			
		イ 部活動の充実を図り、少人数でも効果的な活動ができるような工夫を試みる。また、部活動の実情に合わせ、適宜、顧問の再配置等を行う。⑭⑳			
		ウ より充実した内容のHR年間指導計画を作成し、キャリア・パスポートを効果的に活用し生徒の主体的な活動へ繋げる。⑫⑬			
	2 各学年、他の校務分掌と連携を図り、種々の教育活動の充実に努める。	ア 総合的な探究の時間とチャレンジプロジェクト等の活動に関連付け、生徒の主体的な進路実現を促す。①⑨			
		イ デジタル・シティズンシップ教育の一端として、ICT 教育の充実を図り、相互授業参観や研修等を通して授業改善に努める。④㉔			
		ウ 進路指導部と連携し、インターンシップの実施やキャリア・パスポートの活用を通して生徒のより良い進路選択につなげる。⑨⑩⑬			
事務部	1 学校の窓口としての的確な接遇を行う。	ア 電話や窓口等においては、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるよう取り組む。⑱			
	2 予算を計画的・効率的に執行する。	ア 限られた財源の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。㉑			
	3 安心安全な学校生活のための施設管理を行う。	ア 学校施設の日々の点検及び修繕により、生徒が安心して安全に教育活動を行える教育環境の設備・保全に取り組む。㉑			
第 1 学年	1 基本的生活習慣を確立する。	ア できる限り遅刻・欠席・早退をしないよう、日頃より健康・体調管理に留意させる。⑦			
		イ 学年集会やHR等を通して、ルールやマナーの遵守を徹底させる。また、きちんとした身だしなみを意識させ、元気で明るいあいさつを心掛けさせる。⑦			
		ウ 高校生という自覚を持たせ、「当たり前」のことを「当たり前」にできるような生徒になれるよう自分の行動に責任を持つことを意識させる。⑦			
	2 基礎学力の向上を図る。	ア 到達度テスト等のデータを活用し、基礎学力の定着・向上を図る。⑤			
		イ 基礎学力向上を図る上での授業の重要性を理解させ、課題や提出物等にはきちんと取り組ませる。⑤			
		ウ ICT 機器を活用し、自ら探究的な学びを深められるような機会を多く与えていく。①㉑			
	3 進路に対する意識を持たせる。	ア 様々な進路行事等を活用しながら、自分の進路に対する意識付けを図る。⑨			
第 2 学年	1 基本的生活習慣の徹底を図る。	ア できる限り欠席・遅刻・早退をしないために、常に体調管理を意識させる。⑦			
		イ 学年集会やHR等を通して、ルールやマナーの遵守を徹底させる。特に、きちんとした身だしなみ・元気な挨拶・時間厳守を心掛けさせる。⑦⑧			
		ウ 社会に出ることを念頭に「当たり前」のことを「当たり前」にできるようにするために、自分の行動に責任を持たせる。⑦			
	2 進路意識の高揚を図る。	ア インターンシップや進路ガイダンス等の進路行事を通して、自分の進路に対する意識を高めさせる。⑧⑨⑩			
		イ 各種課外や模試を計画的に実施し、進学希望に対応した学力養成を目指す。⑥			

別紙様式 2 (高)

		ウ 進路実現のために、授業や家庭学習への取り組みを重視させ、基礎学力を向上させる。④⑤			
	3 生徒理解を深める。	ア HR活動や面談等を通して生徒理解に努め、問題行動の未然防止を図る。⑫⑬			
		イ よりよい人間関係の構築に向け集会やHR活動でコミュニケーション力を養う。①			
		ウ ICTを活用し、業務内容の効率化を図り生徒と向き合う時間を確保する。⑳			
		エ 保護者と連絡を密に取り合い、生徒の現状に関して共通認識を持てるようにする。⑧⑩			
	4 修学旅行を充実させる。	ア 修学旅行の事前・事後学習及び各教科での主体的な学習を通して、歴史・文化と平和への理解を深める。⑬			
第3学年	1 基本的生活習慣の徹底を図る。	ア 最高学年としての自覚を持たせ、規範意識の高揚と豊かな人間性を養う。⑧			
		イ 社会人としての基本的な資質能力を養う。⑧			
		ウ 遅刻・欠席の減少に努め、皆勤を目指す指導をする。⑦			
		エ 正しい言葉遣いや態度、挨拶・服装・頭髮等の指導で、けじめある生活を定着させる。⑦			
		オ ICTを活用し業務の効率化図り、生徒と向き合う時間を確保し生徒理解に努める。⑳			
	2 進路実現のための意識及び学力の向上を図る。	ア 課外や模試を計画的に実施し、進路実現のための学力を養成する。⑥⑪			
		イ 就職問題集等の活用を通して、学習習慣を身に付けさせる。⑤⑪			
		ウ HRやガイダンスを通して、ICTを活用し一人一人のキャリアプランニング能力を高め、社会に出るための下地をつくる。①⑨			
	3 保護者・地域社会との連携を図る。	ア 三者面談や進路行事を通して、保護者との連携を図り進路指導について信頼関係を構築する。また、家庭との連絡を密にし、卒業と進路実現に向けて意思疎通を図る。⑩⑬			
		イ 配慮を要する生徒・家庭について、教員間での情報を共有し支援に努めるとともに、外部機関・各校務分掌との連携を図り、生徒や保護者と向き合う時間を確保する。⑬⑳			

※ 評価規準：A : 十分できた。良い結果が出ている。うまくいっている。

B : よい。まずまずの結果である。

C : やや不十分である。努力を要す。

D : 不十分である。かなり努力が必要である。